



JAPAN URBAN DESIGN
INSTITUTE

都市環境デザイン会議

東京都渋谷区広尾1-10-4
越山LKビル内 〒150

TELEPHONE 03-5420-5995

FACSIMILE 03-5420-5996

JUDI NEWS

016 MARCH 10.
1994

発行者
都市環境デザイン会議 広報・出版委員会

●第3回全国ブロック幹事会報告(金沢).....1	●関西ブロック・セミナー報告と予告.....4
●ブロック活動報告	●中部ブロック・フォーラム報告.....5
九州ブロックの活動計画.....2	●委員会活動報告
四国ブロックの活動報告.....2	事業委員会報告.....6
関東ブロックの活動報告.....2	広報・出版委員会報告.....6
中国ブロックの活動報告.....3	●選挙管理委員会公告.....7
北陸ブロックの活動報告.....3	●代表幹事会より、事務局より、編集後記.....8

都市環境デザイン会議の最近の活動

第3回全国ブ ック幹事会報告 (金沢)

菅 孝能

SUGE, TAKAYOSHI

山手総合計画研究所

代表幹事

1. 金沢での全国ブロック幹事会で

JUDI発足以来3回目の全国ブロック幹事会が、1月30日(日)8年ぶりの雪景色となった金沢市で開催された。全国ブロック幹事会は総会と並んで、全国に散らばるJUDIの役員が一堂に会して、JUDI活動のあり方を議論し、ブロック活動の情報交換を行う数少ない機会である。当日は各ブロック活動の中間報告、今後の活動計画などを報告し合うと共に、例会、フォーラム、シンポジウムなどのチラシ、報告書、会員の事例集など活動の成果の交換も行った。

それらの詳しい報告は、後段の記事をお読み頂きたいが(北海道、東北ブロックについては前号NEWS015参照)、主たる議論は「いかにブロック活動を活性化させるか」に集中した。三大都市圏では会員数も多く集中しているため、例会や催しが比較的活発に行われているが、それ以外のブロックともなると会員数も少なく広い圏域に散らばっているため、会員が集まりにくい。そのためなかなかJUDIの活動が活発にならないという問題を抱えている。これに対して次のような意見が出された。

- 年に数回ブロックでフォーラム等を企画し、集まる機会を作ったらどうか。
- 前もってイベントを本部が企画し、地元と協力して実行したらどうか。
- 人数の多いブロック(関東や関西)が他ブロックをサポートしたらどうか。
- 関東ブロックでも東京ばかりでなく関東各地で開催してほしい。
- 何かの機会ですべて「全国から集まる」というのは地元を刺激する効果があるので、総会や全国ブロック幹事会などを年に2~3回各地で開催できるようにならないか。
- 各地の見学会など、その地方の特色を出した企画を全国に呼びかけていったらどうか。
- ブロックの情報や提案等を随時事務局にファッ

クスし、全国からの参加や交信を募ったらどうか。

2. 代表幹事会でも

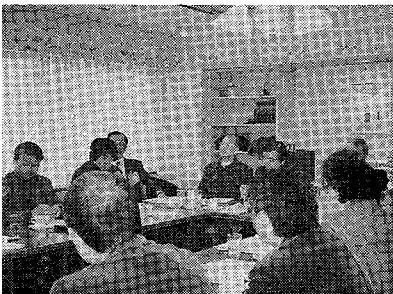
この議論はさらに2月4日の第34回代表幹事会にも引き継がれ、次のような議論が行われた。

- 地方で総会や全国ブロック幹事会など全国から集まるイベントをやったらどうか。
 - ブロックのくくり方は便宜的なものだからブロックの活性化といっても無理があるのではないか。一つのブロックにまとめるには難しい広さの所もあるし、ブロック内で集まるのを義務化するのには苦痛かもしれない。むしろ中心的な地方都市と全国各地会員とのコミュニケーションを考えた方がいいのではないか。
 - その場合、各地のプロジェクト見学会等を組み合わせた企画を役所も含めて関係者に投げかけ、地元で運営し、全国から参加してもらう方法はどうか。
- 等々。

3. ブロック活動の活性化へ

今回、ブロック活動活性化議論が活発に行われたのは、前日の金沢フォーラムの盛会とは無関係でないと思われる。雪で工夫を凝らした都市デザインの細部が隠れてしまったとはいえ、雪景色のもと、北陸地方都市の風上を実感できる貴重な一日であったし、石川県、金沢市の協力も得て休眠状態にあった北陸ブロックの示した企画や内容は、全国から集まった会員や地元のプランナー、デザイナーの活発な発言を引き出し、JUDIの存在をアピールする結果となった。

昨年の長野小布施のまちづくり見学会と組み合わせた全国ブロック幹事会に次ぐ金沢でのフォーラムと全国ブロック幹事会の併催は、地方ブロック活動や地方都市の都市デザイン・環境デザインへの一つの有効な刺激策であり、今後のJUDIの活動の手法の一つを示したものとしよう。



九州ブロックの活動計画

岡 道也

OKA, MICHIIYA

九州芸術工科大学

九州ブロック幹事

1. 会員増強

九州ブロックに属する会員は1994年1月現在で23名。当初めざした20名以上は一応達成された。

ブロック活動を充実させる上では、更なる会員増が望まれるので、引き続き会員増強に努力している。今期末までに30名以上の可能性がある。

2. 九州ブロックの運営方法に関する検討

九州ブロック会員相互の連絡を密にし、意見交換や交流の機会を増やす方向での運営方法を検討している。

その一つとして、ブロック内での会合や打合せに、より多くの会員の参加が可能となるように、会議場所の設定や、参加者への旅費、宿泊費等の支給方法の検討を急いでいる。

また、長期的には「九州都市環境デザインガイドマップ」の出版を企画しており、現在、実現化に向けて検討中である。

今期中には、本部広報・出版委員会との連携もとりながら、情報収集・整理の方針と具体的な作業内容や方法についてまとめる予定である。

3. 研究懇談会の開催

会員相互の交流と、当デザイン会議の対外的PRを目的とした研究懇談会を、昨年度は福岡市で「博多湾洋上シンポジウム」を開催（1993年5月28日、29日）した。その成果を踏まえた上で、今年度は北九州市において、門司港や下関を中心にした「海峡都市の文化を語り合うシンポジウム」を開催する予定で、現在、実施に向けて準備中である（注）。

いずれは見学会や懇親会を兼ねて、各県をまわる定期的な催し物として定着させていきたい。なお、会員数の増加がある程度達成されれば、年に2回実施したいという声も上がってきている。

（注）門司港でのシンポジウムは、1994年5月21日（土）と22日（日）に、国の重要文化財であるJR門司港駅の2階ホールで、シンポジウムと懇親パーティを実施する。また、門司港レトロ事業をはじめとする各種の整備事業や、関門海峡の景観を楽しむ見学会も予定している。開催にあたっては、地元まちづくりグループや行政、産業界等の参加・協力も要請中である。

四国ブロックの活動報告

大谷 英人

OHTANI, HIDEHITO

若竹まちづくり研究所

四国ブロック幹事

四国ブロックでは、本年度の活動計画として以下のような予定を組みました。

1. 運営会議の開催 ブロックの企画・運営に関する会議を年に2程度、開催する。

2. シンポジウムの開催 都市環境デザインに関するシンポジウムを開催する。

3. 会員の増強 都市環境デザイン会議会員の増強活動を行い、ブロック活動を活性化する。

しかし、私の怠慢もあり、これまでの間では、十分実施されているとは言えませんが、3. の会員の増強については、四国四県の内、これまで会員のいなかった香川県で、近畿ブロックの小林郁雄さんのご協力により、一人の方の入会があり、やっと四県そろいました。また、徳島でも更一人の方が入会され、これで高知、徳島が各二名、愛媛、香川が各一名の、計六名となりました。今年度中には、出来れば各県最低二名づつに出来ればと考えております。

1. 2. については、これまで実行されており

ませんが、本年の4月か5月に、徳島市で『都市環境デザインに関するシンポジウム』を開催するよう企てており、それに向けて四国ブロックの運営会議の開催も予定しております。シンポジウムの開催に当たりましては、講師の派遣等、幹事の方々をはじめ会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

また、この徳島市での『都市環境デザインシンポジウム』開催の呼びかけと合わせ、四国ブロック会員相互の交流を図るために、四国ブロックの機関紙を発行したいと考えています。

発行回数は、当面、2～3ヵ月に1回程度を目標（今年度は、4月、6月の2回を予定）に、来年度につなげていきたいと思っております。当面、発行責任者は大谷英人、編集責任者は山上庄一。体裁は、A4-4頁（A3の裏表）コピー仕上げ。発行部数は、100部程度で、配布は各会員が行うことにしたいと考えています。

関東ブロックの活動報告

伊藤 洋

ITOU, YOU

都市環境計画研究所

関東ブロック幹事

関東ブロックでは、他のブロックと同様会員相互の遠隔の問題もありますが、むしろ大勢の会員とどのようにコミュニケーションするかが活動の課題です。例会の通知（往復はがき）の活用、ブロック独自の広報等の手段を検討しています。

併せて、JUDI設立時に実施されたアンケートで、JUDIに期待するものの1、2番にあがっていた社会的活動（既存のメディアの利用等）を検討したいと考えています。

JUDIの活動は、JUDIの存在理由に根差していることが必要と思っております。例会等の活動は

JUDIそのものではない、それはJUDIの実体の発現と受け止めるべきものと考えます。JUDIの実体をつくりたいと考えています。

1. 例会

月1回開催予定の例会は、6月～12月の間に5回開催しています。

参加者は20～40人位で、活発な討論になることもあります。関東ブロックには240人程の会員がいることを考慮すれば、例会への参加率は低いといわざるを得ません。

例会の概要は次のとおりです。

- 第9回 「コロナ矢板・フィオーレ喜連川の自然型宅地開発技法」
- 第10回 「新潟県新大野大橋の設計コンペ」
- 第11回 「文化財保護とまちづくりの『共生』について」
- 第12回 「職能としての都市環境デザイン分野の今日的課題」
- 第13回 「日本におけるランドスケープアーキテクトの現状」

- ◇タウンデザイン
- ◇ランドデザイン
- ◇パブリックデザイン

2. 4つの班

大勢の会員の活動への参加を活性化する一手法として、職能別ではなく分野別に班を構成してやることとしました。分野毎の活動と分野間の活動とを織り込めればと考えています。

◇ランドスケープ&シビルデザイン

1. 活動報告

- 1992年度第2会例会以来活動休止中。
 - 今後、早急に例会を開催する。
- #### 2. 今後の活動計画
- 2月：例会+親睦会

北陸ブロックの活動は残念ながらこのフォーラムが唯一の活動である。この機会に会員増強を図り、今後の活動を活性化したい。(水野談)

1. フォーラムの趣旨

専門家、実務家が集まって都市環境デザインについて、金沢における都市景観施策及び事業を具体事例とした討論することを企画した。

2. フォーラムの趣旨

金沢の景観文脈は当然、新と旧、開発と保存、国際的と日本的などのせめぎ合いで、議論は揺れ動いている。景観事業の現場レベルでは、伝統的町並みの石畳舗装が批判を受けたり、近代的に整備された小公園がもとの湿気多く薄暗い状態の方が良かったと言われたりしている。

こうした様々な様相について、専門家、実務家レベルで、しかも不安や迷いや本音を出して議論できたらと思う。

直接かかわるデザインそのもののあり方、決め方のルール、そして都市の景観文脈の形成、既成法との矛盾克服等について少しでも前へ深く入り込めれば幸いである。

3. フォーラムの概要

- 主催：都市環境デザイン会議（北陸ブロック）
- 後援：石川県（土木部建築住宅課）
金沢市（都市政策部景観対策課）
- 協賛：(財)石川県住宅センター
- 日時：平成6年1月29日（土）
- プログラム
11:00-13:30 金沢市内景観見学会
14:00-14:45 フォーラム開催
趣旨説明会（司会：樋口忠彦）
全体会議（県・市説明）

3. メンバース・プロフィール

会員相互の理解、諸々の活動における協力・情報交換、そして会の運動の基礎的体力の醸成を目的としたメンバース・プロフィール発行事業は、11月末の締切を最終1月末として進め、印刷完了・会員への発送は5月末になる見込みです。

会員の中には、いろいろな都合で版下原稿を作成できない方がいると思います。今回は1回目の発行ということで、種々の条件もあり、この全国ブロック幹事会での了解を受け、2月中頃をもって閉めきり、提出された方を対象に、最初の「メンバース・プロフィール」として出版することとします。次回は全員参加を期したいと思います。

JUDI中国ブロック賞（仮）の創設とシンポジウム開催準備及び会員増強策の検討等

- 4月：例会+シンポジウム+JUDI中国ブロック賞顕彰

*金沢市景観施策と事業の説明

15:00-16:45 分科会

- I 金沢市の景観条例、石川県の景観施策について
- II 法令、規制、規格、基準、慣例、体制等と景観施策
- III デザイン批評

16:45-17:00 全体会議

- 1. 分科会報告（安島、川上、水野）
- 2. 全体討論（JUDI本部）

18:00-19:30 懇親会（金沢東急ホテル）

*参加者、会議主催者間の交流

●参加者としての感想

当日は、9年ぶりの大雪とかで、雪が降りしきるなかフォーラムが開催された。地元の方々が多く参集される中、JUDIメンバー20名前後も加わって盛大な催しとなった。久ぶりの金沢であったが、駅周辺や中心の香林坊周辺も再開発が発で今後もまだ多くの再開発が予定されていると聞き、地方中心都市としても希有な例ではないかと驚いた次第である。ただ、歴史的町なみと現代的都市の風景が比較的近い位置関係にあり、今後これらがどのように調整され、調和した景観を持つに至るのが興味深い。フォーラムでは完璧ともいえる資料や準備を県・市の方々にしていただき、討論の内容も、その場で具体的なデザインのあり方の助言が出るなど実りあるものとなった。懇親会は県・市のご尽力で、これまた盛大な催しとなった。一同ただただ感謝しつつ一夜語り明かした。ブロック幹事の水野さんご苦労さま。(土田)

中国ブロックの活動報告

◆全国ブロック幹事会での中間活動報告の要旨

北陸ブロックの活動報告

◆都市環境デザインフォーラム・金沢の概要
(詳細は次号で紹介予定)

関西ブロック・ セミナー報告と 予告

鳴海 邦碩

NARUMI, KUNIHIRO

大阪大学

代表幹事

I. 1993年セミナーを振り返って

関西ブロックでは1993年事業として以下のよう
に10回のセミナーを開催した。第1回目の座談
会は JUDI NEWS No.11 にその概要が紹介されて
いる。1992年に開催したセミナーと合体・編集し、
その成果を出版する計画が進められている。

この他、<第2回都市環境デザインフォーラム
・関西>を7月16日、17日に開催した。テー
マは<田園と自然の可能性を探る>で、その結果
の概要は JUDI NEWS No.14 に紹介されている。
報告書が作成されており、若干残部があるので、
希望者は関西ブロック事務局に申し込んでいただ
ければ入手が可能である。

① 2/17 (水) 座談会

日本の都市空間のめざすべき方向：民族的市
街地空間あるいはエスノ・スケープを巡って
鳴海邦碩、小林郁雄、長谷川弘直、材野博司

② 3/29 (月) 主張

アートで都市をつくる 折田知子

③ 4/21 (水) 講座

イタリアの都市デザインから日本の都市づく
りを考える 井口勝文

④ 5/7 (金) 激論

都市と建築あり方を考える JUDI vs JIA
取りまとめ：材野博司、江川直樹

⑤ 6/23 (水) 主張

7-0'デ'ザ'イ'がつくろうとする
ムラ・マチ起こし 長谷川弘直

⑥ 8/9 (月) 講座

ベルギーの都市デザインから日本の都市デザ
インを考える 丸茂弘幸

⑦ 9/6 (月) 講座

新都市開発における環境デザイン 小林郁雄

⑧ 10/14 (木) 主張

読み取られる敷地とランドスケープデザイン
佐々木葉二

⑨ 11/15 (月) 主張

都市における新しい緑地計画の視点
宮前洋一

⑩ 12/18 (土) 激論

根元主義と隙間主義
問題提起 田端修
日本の空間文化における隙間
コメンテーター上野泰、井口勝文
討論参加者 出席者全員
(終了後、総会、懇親会がもたれた。)

II. 1994年セミナーの予告

本年中に開催するセミナーは以下のとおりであ
る。テーマは確定しているが、2回のセミナーを
除いて、日時・場所は未定である。

昨年は、<講座><主張>というセミナーのタイ
プを設定したことからもわかるように、考えを
開陳するというタイプが多かった。本年は具体的
なプロジェクトを取り上げ、実践的な観点から意
見交換することをねらいとしている。

また、<第3回都市環境デザインフォーラム・

関西>は、11月4、5日の両日<土木と環境デ
ザイン：その理念と実戦的方法論>のテーマで、
関西文化学術研究都市内で開催する予定である。

① 2/25 A・A諸国建築家のみた日本の都市空間 ：日本から何が学べるか？

-彼らがみた日本都市の特徴、および
そこから何が学べるかを論じてもら
う。担当 鳴海邦碩

② 3月 プロジェクト点検：京都・桂坂

-京都の会員が多数参加して実現した
プロジェクトであり、その紹介を兼
ねて意見交換する。担当 山崎正史

③ 4月 パブリック・アート再点検

-環境のアート化がいわれるが、あま
りにも場にそぐわないものが氾濫し
ているのではないかとそぐわない例
をいろいろあげながら論じたい。
担当 今井祝雄

④ 5月 プロジェクト点検：西播磨パブリック

-現地見学を兼ね、USA流のランド
スケープデザインの日本における展
開をみる。担当 田端修

⑤ 6月 今、奈良が危ない

-奈良でさまざまな動きが展開されて
いるが、その状況を現地を見ながら、
意見交換をする。担当 武市義雄

⑥ 7月 公的開発におけるデザイナーの参加と そのプロセス

-デザイナーがどのように参加し、そ
の考えがどのように評価される仕組
みになっているかを論じる。
担当 山本茂

⑦ 8月 オブ'ンス'ア'スと建築、そして都市

-これまで再々話題としてきた数際の
あり方をより展開させ、空地デザ
インにおける課題を論じる。
担当 白井治

⑧ 9月 プロジェクト点検：名塩ニュータウン

-複数の会員が計画に参加しており、
その状況を紹介すると同時に、その
経験を通じて新たな課題について論
じる。担当 長谷川弘直

⑨ 10月 まちづくりにおける大都市コンサルと 地元コンサル

-コンサルタントによるまちづくり支
援は、地元密着型が望ましいとされ
るが、地方都市ではなかなか難しい
ことである。これにどのように対処
すべきであるかについて論じる。
担当 後藤祐介

⑩ 12月 アジア的都市デザインの可能性

-このセミナーにおけるこれまでの議
論をふまえ、さらに展開させた議論
を行なう。担当 鳴海邦碩
(このセミナーは1994年の最終事業
であり、終了後、総会、懇親会がもたれ
ることになる。)

中部ブロック・ フォーラム報告

森 延彦

MORI, NOBUHIKO

静岡県都市住宅部
中部ブロック幹事

“93年度の中部ブロックのメイン活動として、都市環境デザイン会議フォーラム・中部を開催した。

テーマを「都市のヴァリエーション」とした作品展示会及びシンポジウムである。

21世紀の地球を救うパラダイムは美学であるともいわれる。混沌とした都市環境の中で、会員が様々な分野で様々な挑戦と悪戦苦闘している状況を作品展示及びシンポジウムにより表そうとしたものである。展示担当を集山一廣氏シンポジウム担当を澤田晴委智郎氏にお願い実施した。

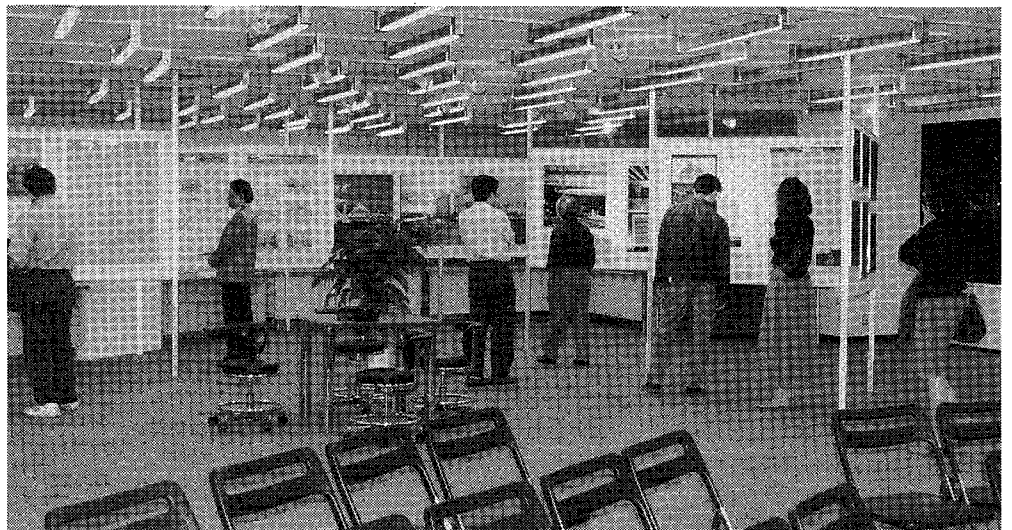
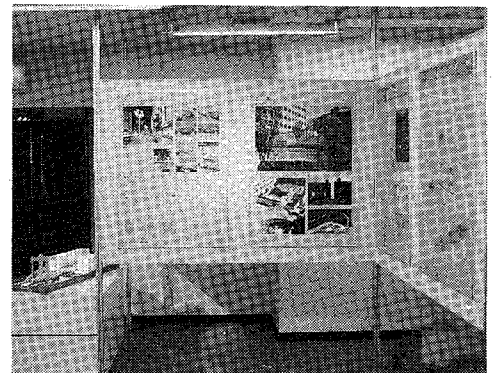
1 作品展示会

- ・期 間： “93年11月12～14日
- ・場 所： 名古屋市INAXショールーム
- ・展示作品： 作品パネル、写真、
模型等 総数42点
- ・INAXのご厚意により都心部の会場を無償で借用させていただき、期間中延べ 200余名の来訪者があり大変盛況であった。
- ・中部の会員の事例集を作成し、会場にて配布した。
- ・展示作品は、街並みデザインをはじめ道路や橋梁のデザイン、公共トイレのデザイン、データベース事業など実に多様で会員にとっても興味深いものであり対外的にも同様であったと思われる。

2 シンポジウム

- ・期 日： “93年11月13日
- ・場 所： 作品展示会フロア
- ・コーディネーター： 林 英光氏
- ・パネラー： 夢童由里子さん 東恵子さん
村松みち子さん
- ・2時間半に及ぶシンポジウムであったが、60余名の参加を得て大変熱心に行われた。
- ・パネラーを女性の会員3名にお願いし、風土や地域性を大切にしたい多様性の追及、和洋共生、学校教育の重要性など広範かつ本質的な発言が多く出されテーマにふさわしいシンポジウムであった。
- ・地元新聞に大きく取り上げられ我々の活動がPRできた。
- ・終了後シンポジウムに参加した非会員の方々共々親睦会を行った。

会員が、地理的にも分散し、またそれぞれに大変多忙な方々であり、なかなか大変な面もあるが、着実な活動をとおしネットワークの強化が図られれば願ってブロック活動を進めている。



事業委員会 報告

西沢 健

NISHIZAWA, TAKESHI

GK設計

事業委員長

事業委員会では、会員の皆様のご協力を前提に社会に対する意味ある語りかけを行うと共に、事業としての収益をあげるため、独自事業、受託協力の2本柱で活動しています。

1. 事業委員会事業

(1) モニターメッセ事業 は、92年プレメッセ、93年メッセに引き続いて行うものであり、参集して頂く会員の皆様や出展頂く企業にとってより充実した情報交換の場、ひいてはより良い都市環境を創り出す母体となるよう準備を進めています。現在、2月14日付けで出展の案内状を39社に送付していますが、皆様の方でも企業に出展をお勧め下さいますようお願いいたします。その他、メッセに関する斬新なアイデア等ございましたらFAXでご連絡ください。[FAX 03-3989-0533 監 GK設計西沢宛]

●事務局：園廻山口氏 ☎03-3862-1811

●期 日：1994年7月9日(土) 総会と同日
時間・場所を検討中

(2) 出版事業 は、会員のもつ質の高い情報を整理し出版することで、社会への働きかけの一つとして行うものです。現在、次の3案が出されていますが、いずれも研究、広報委員会との調整や出版方法ならびに事業採算の見通しを明確にするべく検討中です。

1) 都市デザインプロジェクト [シリーズ出版]

●都市、地域、地区の広がりにおいて実施された各種プロジェクトに対し、都市デザインの視点により、思想、実施プロセス、事業内容工夫、評価等についてプロジェクトに参画した人達がコアになって編集、執筆する。

●各巻40～50ページ程度の内容とし、単に資料集、写真集ではなく、当プロジェクト等が必要とされた背景や、結果としてのデザインがどのようなプロセスをもって成立したのか、事業上の各種課題をどのようにしてクリアにしたのか等、これまで一般に公表されていない点も含めたものとする。

●年1度の出版を目標として、概ね10年間で10巻

JUDIニュースの発行

ここのところニュースの発刊が遅れており、ご迷惑をおかけしています。17号をもって正常化するつもりです。また、事例ページをお休みしていますが、会員の皆さんからの事例紹介が乏しく、止むを得ず中断しています。ご自分の事例に限らず、是非紹介したいという事例があればお教え下さい。

JUDIイヤーブックの編集

昨年末に本委員会として下記の方に編集委員になっていただくようお願いをし、承諾を得ました。第1回目の会合を3月11日に開く予定です。当面の委員以外の方で関心のある方は是非本委員会

程度のシリーズ本とする。

2) 都市環境ジャーナル [季刊定期出版]

●会員の中で年間編集長を決めて、責任編集の本として、個性的批判等既成のジャーナリズム誌では書けないような意見を積極的に述べ、社会的問題の「提起」をするような定期出版とする。

3) 都市環境デザインファイル [年刊定期出版]

●現在、省庁諸団体において、都市環境デザインに関する各種の「賞」が制定されているが、これらの応募作や入賞作について定期的な資料収集を行いデータファイル化する。

2. 受託協力

受託は、都市環境デザイン会議の存在をアピールし、会員の活動の場を提供するものとした。

(1) 翌都市づくりパブリックデザインセンター賛助会員懇談会講師派遣 の依頼があり、

1 27：山口雅子氏 (中部ブロック)

2 16：松波龍一氏 (中国ブロック)

に各々ご協力頂いた。

(2) 翌都市づくりパブリックデザインセンター講師派遣 の依頼があり、現在、山本忠順氏 (関東ブロック) が候補者としてあがっている。

(3) 94年 JAPAN SHOP (日本経済新聞社総合事業部主催) 講師派遣 の依頼があり、

3 25：加藤 源氏 (関東ブロック)、

柳原優氏、榎島みどり氏 (会員予備軍) にご協力をお願いしている。本件については、同封の案内状をご覧下さい。

(4) 国際パブリックデザインフェアNAGOYA'94講師派遣とサブテーマ設定 の依頼があり、林英光氏 (中部ブロック) を担当者として協力していく方向にある。現在、11月4日 (金) 名古屋吹上ホールにて、テーマ「道の新風景」。

(5) アーバンインフラ・テクノロジー推進会議シンポジウム、作品パネル、模型等の計画及び参加の依頼があり、中野恒明氏を担当者として、関東ブロックで検討中。1995年1月27日 (金)～30日 (月) 東京国際見本市会場で開催予定。

までお申し越し下さい。

編集委員長	鳴海邦碩	(代表幹事、都市計画)
委員	飯村博	(商業/関東)
〃	井上洋司	(造園・建築/関東)
〃	窪田陽一	(土木/関東)
〃	高見公雄	(都市/関東)
〃	田端修	(都市/関西)
〃	錦織英二郎	(都市/関東)
〃	林英光	(ID/中部)
〃	宮前保子	(造園/関西)
〃	元倉真琴	(建築/関東)

イヤーブックは2～3年に1回発行予定です。

広報・出版委員会 報告

土田 旭

TUCHIDA, AKIRA

都市環境研究所

広報・出版委員長

選挙管理委員会 公告

都市環境デザイン会議会員各位

都市環境デザイン会議
選挙管理委員会
委員長 西協敏夫

告示日 1994年3月11日

■都市環境デザイン会議代表幹事ならびに監査役の選挙について

この度、役員任期満了に伴い、代表幹事、監査役を選挙により選任することになり、役員選挙規定第12条により選挙管理委員会を設け、選挙を行うこととなりました。規定第7条2項に基づき下記のとおり選挙の告示を致します。

以下の点につきましてご留意の上、多数の立候補を期待致します。

記

1. 今回選出される人数は以下のとおりである。

代表幹事 10名

監査役 2名

2. 役員は、あらかじめ会員の選挙によって選出された候補者が、7月9日(土)の総会において承認されることにより選任される。

3. 選挙権と被選挙権

第6条 選挙権を有する会員は、選挙告示の日から一か月前(1994年2月11日)までに会員としての資格を有したものとす。

- 2 被選挙権を有する会員は、選挙告示の日から一か月前(1994年2月11日)までに会員としての資格を有したものとす。

4. 役員任期は2年とする。

5. 候補者の形式について

代表幹事、監査役の選挙には2通りの形式がある。

(1) 自立による立候補

(2) 選挙権を有する正会員2名の推薦を受けた推薦候補

6. 推薦人は候補者を代表幹事においては2名、監査役については1名までを推薦できる。

7. 候補の届出は次の様式にしたがった届出書を用いて行う(大きさはB5)。用紙は事務局に置いてある。

8. 推薦候補の届出には、候補者本人の自署、捺印が必要になるので注意のこと。

9. 届出は、都市環境デザイン会議選挙管理委員会(〒150 東京都渋谷区広尾1-10-4)宛とし、提出期限は1994年3月28日(月)午後6時とする。

10. 投票は、役員選出規定第7条に規定されているとおり、別紙送付される投票用紙によって無記名、通信制で行うものとする。なお、投票期間は投票用紙送付(4月20日(水))から5月13日(金)(当日消印有効)までの予定である。

■都市環境デザイン会議1994年度役員選挙

スケジュール(予定)

3月11日(金) 選挙告示

3月28日(月) 立候補届出締切(午後6時)

4月20日(水) 投票用紙送付

5月13日(金) 投票締切(当日消印有効)

7月9日(土) 第4回通常総会

■候補届出書の様式

代表幹事・監査役 立候補・推薦候補届出書

届出日 1994年 月 日

○候補者は下記の各欄を明記して下さい。

候補者名 氏名	印	生年月日	19 年 月 日 満 歳
所属機関			
住所	(勤務先) 〒 (自宅) 〒		
所 信			

○推薦候補の場合、推薦者が下欄に記名捺印して下さい。

	印		印
--	---	--	---

推薦理由 (1名)	
	(執筆者氏名:)

都市環境デザイン会議選挙管理委員会

代表幹事会より

全国ブロック幹事会も無事終わりました。

前日の「都市環境デザイン・フォーラム・イン金沢」の開催やブロック幹事会のためにいろいろと便宜を図って下さいました北陸ブロックの会員の方々並びに石川県や金沢市の方々に代表幹事一同心から御礼申し上げたいと思います。

本NEWS1頁目の菅代表幹事の報告でも触れているように、その後、代表幹事会では当日ブロック幹事から出された意見やその他の案件について相談しています。重なるところもありますが、具体的には以下のとおりです。

1. 地方ブロック活動の活性化について

全国ブロック幹事会では、ブロックの範囲が地理的に広いと、ブロック単位で活動する上で集まりにくく、これが活動を活性化し得ない原因の一つになっているとの意見がいくつかのブロックから出されました。

この点について代表幹事会で早速相談しましたが、以下のような意見が出されています。

- ブロック内での大会のような大きなイベントを開催する場合には旅費を本会から支出してもよいのではないかと。ただし、本会の事業収入等の

増加が前提となる。

- 関東や関西ブロックが近くのブロックの活動を支援してはどうか。
- 仕事等で出張する場合、予め連絡をとり、活動を応援してはどうか。
- 集まるばかりではなく、ブロックの中心都市とブロック内各地とのコミュニケーションを活性化することも考えるべき。

それぞれ可能性のある方策と考えますが、上記を参考にして各ブロックにおいて実践して頂けたらと思います。なお、代表幹事会ではこの課題について、さらに検討することとしています。

2. 本会の広報活動について

本会の活動がさまざまに活発化してきていますが、活動を事前に広く社会に広報するために、新聞社、雑誌社、放送局等にイベント等の案内を送ることとしました。ブロック活動や会員の活動について積極的に広報していきたいと考えていますので、活用して下さい。

広報のためのフォーマットは事務局に用意されています。必要な方は事務局まで連絡下さい。

〔加藤 源〕

事務局より

1 新会員の紹介

1993年12月1日～1994年1月31日の入会者は下記の通りです。(入会順、敬称略)

1/31 現在の会員数は 397名です。

氏名	勤務先
徳永 明	昭和鉄工(株)
仲谷 正人	小樽市役所
夢童由里子	造形作家
渡辺 新生	名古屋市役所
高橋陸三郎	みらい商業構想(株)
田村 博美	(株)オオバ 大阪支店
岡本嘉久一	(株)I N A X
宮口 恒樹	パシフィックコンサルタンツ(株)
松原 義明	新興窯業(株)

2 住所変更等(敬称略)

氏名	変更内容(新)
朝倉 悟	〒383 長野県中野市南宮1-44 マルワコーポラス205 Tel.&FAX0269-23-3588
飯村 博	(株)アイシーエム企画 〒151 渋谷区幡ヶ谷2-18-1 京旺ビル6F Tel.03-3379-1188 FAX3379-1195
酒井 信治	(有)風景設計社 〒815 福岡市南区向野2-14-1 Tel.&FAX092-542-1010
品川 匠	自宅 〒910 福井市二の宮4-25 -1 パセオベルキ 502
八木 健一	(株)八木造景研究所 〒150 渋谷区渋谷2-12-8中村ビル

〔中村和泉〕

編集後記

●第16号は、JUDIのさまざまな活動、とりわけ地域ブロックにおける活動を、1月末に金沢で行われた全国ブロック幹事会報告を中心にまとめ、<都市環境デザイン会議の最近の活動>という特集となった。

幹事・委員等役員各位の献身的早期寄稿により、これまでの遅れを取り戻し定時発行をめざしたが、残念ながら今一步と、またまたお詫びの編集後記となってしまった。すみません。

〔小林郁雄〕

JUDI
NEWS

016
March 1994

広報・出版委員会

小林郁雄 林 泰義
沢木俊岡 宮前保子
土田 旭 森 延彦